

町田・奈良ばい谷戸見学会

2017年9月16日（土）

参加者：16名

協力：NPO法人 まちだ結の里



初秋の9/16(土)、東京都町田市の里山『まちだ小野路奈良ばい谷戸』の見学会を行いました。都会の町田駅からバスに乗ること30分。バス停に着くと、古き良き懐かしい里山の風景が目に飛び込んで来ました。始めに、日頃から谷戸の保全活動を行っており、この日のガイドをして下さった「NPO法人まちだ結の里」の方から谷戸の歴史や日頃の活動内容について説明をしていただきました。元々この場所は森林や田畑が放置されたままになっていて荒れていたのですが、2005年に市民の力で里山を再生する活動を開始。稲作やその周囲の樹林地の下草刈、枝打ち、さらに水路、溜池整備といった農的手法による環境保全活動を続け、今では田畑が復元され、樹林も適度に整備されて豊かな生態系を育む里山になり、四季折々の風景を体験できるようになったとのことでした。

予備知識を得たところで早速谷戸を散策しました。谷戸の中心には広大な田畑があり、この日も保全活動に携わる人達が作業を行っていました。その田畑を横目にして、林道には様々な秋の草花や木の実、茸、昆虫達が私たちの目を楽しませてくれました。この林道もNPOの方々が森林を切り開いて作ったのだそうです。落葉広葉樹林の中は腐葉土で柔らかい土の感触が靴底から伝わってきます。足元に落ちている枝付きのドングリは、チョッキリ虫がドングリに産み付けた卵を外敵から守るために自分で枝を切って下に落としているのだそうです。樹林に響き渡る楽しく美しい鳴き声はガビチョウ。でもどこにいるのか姿が見えなくて残念。少し離れた場所ではここ数年激減している蛙も沢山棲息しているとのこと。整備された樹林は生態系の宝庫でした。林道の途中には炭焼き小屋があり、小屋前の広場で昼食のお弁当を食べました。日照りが続いても決して涸れない湧き水もありました。「小町井戸」と呼ばれるその湧き水は、平安朝の昔、この水で目を洗った小野小町が病を治したと言う伝説が残っていることからこの名前が付けられたそうです。最後は竹林に囲まれた小径を渡って解散。自然との共生の素晴らしさを学び、とても有意義な見学会でした。都会の生活に慣れてしまった私達が見失ってしまった大切なものがそこにはあるような気がしました。自然の恵みに感謝。終日ガイドをして下さった「NPO法人まちだ結の里」の方には大変お世話になりました。ありがとうございました。

(文責：柳澤)

